

博士課程教育リーディングプログラム PO現地訪問時事後評価項目確認表（平成25年度採択プログラム）（案）

整理番号/大学名		プログラム名称	プログラムオフィサー氏名	
<p align="center">評価項目</p> <p>(ア)リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優秀な学生をグローバルに活躍するリーダーへと導く一貫した学位プログラムが構築され、コースワーク等による広範かつ体系的な教育研究指導が行われたか(プログラムの最終形態の確認) ・国内外の多様なセクターからの第一級の教員、メンターやTAの活用をはじめとする組織的な指導体制や、留学生・教員との関わり及び外国語の使用等によるグローバルな教育研究・生活環境が構築されたか(指導体制等の構築) ・プログラム担当者、それ以外の学生の指導教員等の学内関係者のみならず、大学全体として改革理念を共有し共通理解をもって改革を推進・協力しているか(改革意識の共有) ・学生選抜、Qualifying Examination、開かれた学位審査体制など、グローバルに活躍するリーダーとなるに相応しい資質能力を保証するシステムが構築されたか(学位の質保証) ・外部評価により採択プログラムの検証・改善が図られ、設定した数値目標が達成されたか(PDCAサイクルの構築) ・経費の支出内容及び規模は適切か(経費の適切な執行) 	<p align="center">成果が上がっている点</p>	<p align="center">改善を要する点</p>	<p align="center">その他</p>	
<p>(イ)修了者の成長とキャリアパスの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了者がプログラムを通じ、俯瞰力や独創力等の汎用力を向上することができ、プログラムを履修したことに満足しているか(汎用力の育成) ・修了者がプログラムを通じ、分野や立場を超えた多様な人的ネットワークを構築することができたか(ネットワークの構築) ・修了者が、産学官民等の各界のリーダーとしてグローバルに活躍するキャリアパスにつながる就職や起業等の実績を上げているか(就職、キャリアパスの実績) ・修了者の社会での活躍状況を長期にわたり把握する仕組みが構築されたか(把握手法の構築) 				
<p>(ウ)事業の定着・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援期間終了後も学位プログラムの定着・発展に向けて、計画に沿った教育研究組織の再編、テニユア教員のポストの配置計画、学位審査体制の整備、学内の資金再配分計画やFD・SDの実施、教育実績の重視など教職員の評価基準の見直し等について具体的な取組が実施され、十分継続できるか。また、それに加えて、学生が学修研究に専念できる経済的支援の定着や新しい専攻や研究科の創設など計画を上回る教育研究組織の再編等に意欲的に取り組んだか。(定着・発展のための取組状況) ・産学官民等の各界の連携先機関との間で、支援期間終了後の連携の在り方等について方針が定められたか(外部連携の継続性) ・全体責任者(学長)を中心とした責任あるマネジメント体制が構築され、全体責任者(学長)のリーダーシップの下に採択プログラムに参画していない研究科や専攻への学位プログラムの導入など大学院全体として教育改革が進められたか(マネジメント、波及効果) 				

整理番号/大学名	X00 ●●大学	プログラム名称	●●	プログラムオフィサー氏名	●●
----------	----------	---------	----	--------------	----

評価項目	成果が上がっている点	改善を要する点	その他
<p>(ア)リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優秀な学生をグローバルに活躍するリーダーへと導く一貫した学位プログラムが構築され、コースワーク等による広範かつ体系的な教育研究指導が行われたか(プログラムの最終形態の確認) ・国内外の多様なセクターからの第一級の教員、メンターやTAの活用をはじめとする組織的な指導体制や、留学生・教員との関わり及び外国語の使用等によるグローバルな教育研究・生活環境が構築されたか(指導体制等の構築) ・プログラム担当者、それ以外の学生の指導教員等の学内関係者のみならず、大学全体として改革理念を共有し共通理解をもって改革を推進・協力しているか(改革意識の共有) ・学生選抜、Qualifying Examination、開かれた学位審査体制など、グローバルに活躍するリーダーとなるに相応しい資質能力を保證するシステムが構築されたか(学位の質保証) ・外部評価により採択プログラムの検証・改善が図られ、設定した数値目標が達成されたか(PDCAサイクルの構築) ・経費の支出内容及び規模は適切か(経費の適切な執行) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際シンポジウム、海外講演者招聘、学術交流事業の企画と実施など、自主的活動を通じて企画力、交渉力などを育成する環境が構築されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相当負荷の高いプログラムであるのも事実で、終日実験があるような拘束時間が長い研究科の学生にとっては、このプログラムへの参加は難しい。募集広報時には、そのようなことを丁寧に説明することが必要である。 ・日本人入学希望者が増えてこない。大学学部教育担当者および学部学生が「グローバル環境で活躍する人材養成に対する重要性」を充分理解していないことがその理由の一部と考えられる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>特に記載すべき事項がない場合には空欄のまま問題ありません。</p> </div>
<p>(イ)修了者の成長とキャリアパスの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了者がプログラムを通じ、俯瞰力や独創力等の汎用力を向上することができ、プログラムを履修したことに満足しているか(汎用力の育成) ・修了者がプログラムを通じ、分野や立場を超えた多様な人的ネットワークを構築することができたか(ネットワークの構築) ・修了者が、産学官民等の各界のリーダーとしてグローバルに活躍するキャリアパスにつながる就職や起業等の実績を上げているか(就職、キャリアパスの実績) ・修了者の社会での活躍状況を長期にわたり把握する仕組みが構築されたか(把握手法の構築) 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム開始当初は具体的なキャリア像のイメージが乏しい学生が多い印象であったが、分野横断的なキャリアを見通すことを目的とした外部講師によるセミナーや、必須である企業インターンシップの参加等により、学生に対し多様なキャリアパスが提示され、研究者以外の進路を選択する学生が三割程度となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修了者の社会での活躍状況を長期にわたり把握し、それをその時点で実施されている教育体制へ反映させる仕組み(把握手法)の構築は、未だ本格化していないとの印象を持った。大学本部との連携のもと、把握手法の構築に当たっていただきたい。 	
<p>(ウ)事業の定着・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援期間終了後も学位プログラムの定着・発展に向けて、計画に沿った教育研究組織の再編、テニユア教員のポストの配置計画、学位審査体制の整備、学内の資金再配分計画やFD・SDの実施、教育実績の重視など教職員の評価基準の見直し等について具体的な取組が実施され、十分継続できるか。また、それに加えて、学生が学修研究に専念できる経済的支援の定着や新しい専攻や研究科の創設など計画を上回る教育研究組織の再編等に意欲的に取り組んだか。(定着・発展のための取組状況) ・産学官民等の各界の連携先機関との間で、支援期間終了後の連携の在り方等について方針が定められたか(外部連携の継続性) ・全体責任者(学長)を中心とした責任あるマネジメント体制が構築され、全体責任者(学長)のリーダーシップの下に採択プログラムに参画していない研究科や専攻への学位プログラムの導入など大学院全体として教育改革が進められたか(マネジメント、波及効果) 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援期間終了は大学のグローバル化・教育改革戦略として、本プログラムを含む複数の大学院・研究科の再構築が予定されている。縮減された経費で何を維持すべきかについては、●●を寄付金で賄い、〇〇は大学の自助努力で行うなど、プログラムコーディネーターのビジョンが明確に示され、そのための学内の実施体制が構築されつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業から熱心なメンターが確保できておりその熱意によってうまく進んでいるが、今後のメンターの確保が課題である。 	